

# えだまめハウス半促成栽培に適する品種と収量性

山形県農業総合研究センター園芸試験場

## 研究のねらい

えだまめの収穫時期を露地栽培より早め、県内えだまめ産地の出荷期間を拡大するため、無加温ハウスを利用した半促成栽培に適する品種と収量性を明らかにした。

## 研究の成果

- ①ハウス半促成栽培（図1）に適する品種は、収量性に優れ、食味が良い「初だるま」である（図2）。
- ②無加温ハウスに4月上旬に播種することで、6月下旬から7月上旬に収穫することができ、約80kg/aの商品収量が得られる（表1、図1）。
- ③播種直後に、べたがけ資材で被覆すると地温が高まり、出芽や生育の促進により収穫を早めることができる。とくに不織布と農ポリの重ねがけの効果が高い（表1、図3）。

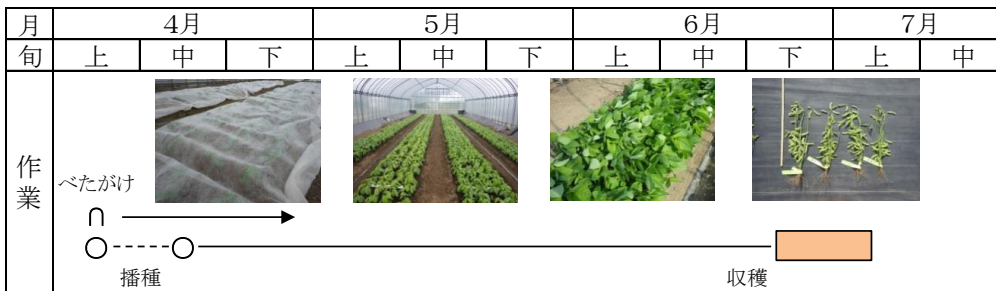


図1 作型の概要

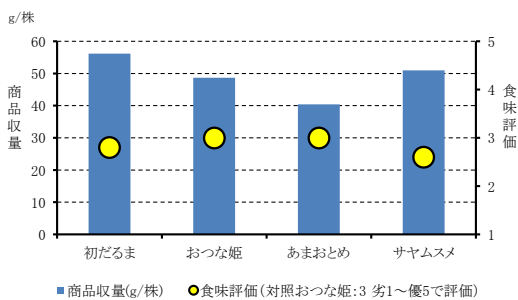


図2 品種別の株あたり商品収量と食味評価 (H29)

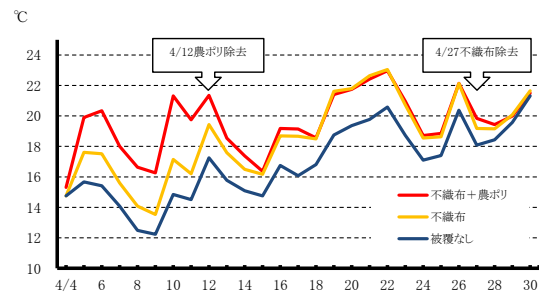


図3 べたがけ資材の保温効果 (H30、日平均地温 (5cm))

表1 べたがけ資材の有無と収穫日 (H30、初だるま)

べたがけ資材	播種日	出芽日	開花日	収穫日	商品収量 (kg/a)
不織布+農ポリ	4/4	4/12	5/24	6/28	80
不織布		4/14	5/24	7/2	84
なし		4/17	5/27	7/5	78

- ・不織布+農ポリは、資材を重ねがけし、発芽がみられたら農ポリを除去した。
- ・不織布は本葉2枚時を目安に除去した。